熊本学園大学 外国語学部 第21号
英米学科 GAZETTE

令和３年５月
発行・編集
熊本学園大学　外国語学部

巻頭言

日本近代の小説を精読するという講義を長らく担当しています。悩むのは、作品の選定です。作品の＜本文分析＞を学生が身につけてほしい、そのために学生にとっては幻想文学的な作品が扱い易そうだが、私小説だと分析の観点が設定しにくそうだ ── 等々。学生から見た難易度も考慮します。しかし、＜学生にとって＞云々を考えるより先に、何よりもまず教える私が面白いと思える作品を選ぶことが必須だと考えるようになりました。私が面白いと思う ⟶ 作品の分析が鋭くなる ⟶ 手順を踏んだ分析を具体的に学生に示せる ⟶ そのことが学生自身の分析の手がかりになる、ということです。私がそれについてきちんと多くを語れる作品を選ぶ必要があると、長年の経験から結論付けています。齢を重ねて、その「面白い」の幅が、小しずつ広がってきているような気もします。

赤井　恵子（外国語学部長／教授／日本近代文学）

研究紹介

私の専門分野は英語学・文体論で、研究内容はおおまかに次の３つに分けることが出来ます。

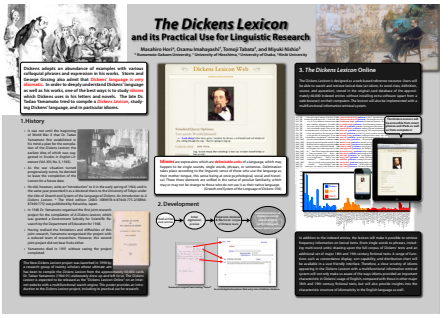
（1）英国を代表する小説家 Charles Dickens の文体研究。その成果は、英国の出版社 Palgrave Macmillan から *Investigating Dickens' Style: A Collocational Analysis* (2004) として出版しました。Dickens の小説の文体を語と語との結びつきであるコロケーションから分析したものです。本書は、2005 年度英語コーパス学会賞を受賞しました。

（2）英語の会話・スピーチ・新聞・文学などに関する文体研究。様々なジャンルの文体を分析することで、言葉の奥深さに触れつつ英語力の向上を図るための英語文体論の入門書『はじめての英語文体論　英語の流儀を学ぶ』（2019 年、大修館書店）を執筆しました。

（3）コンピュータ処理が可能な言語資料の集積「コーパス」を活用した英語学及び英語教育におけるコロケーション研究。コロケーション研究の活性化のための『英語コロケーション研究入門』（2009 年、研究社）とコロケーション学習の重要性とその習得に関する『例題で学ぶ英語コロケーション』（2011 年、研究社）を刊行しました。また、一般読者の英語学習者のための週刊英語学習紙 *Mainichi Weekly*（毎日新聞社発行）において、「堀先生と学ぶコロケーションの時間」という欄を 2018 年４月より月２回担当しました。読者からの感想として、「いつも英単語をひとつの意味で覚えていたので、仲間同士の単語で使い分ける奥深さを学んでいます」などがあり、勇気づけられました。

現在は、コーパスを使った文体研究である『コーパス文体論』という研究書をこの分野の日本を代表する研究者である大阪大学教授の田畑智司先生と執筆中です。言葉は、単語ひとつでも使用されると、そこには文体が見られるという視点で研究しています。研究を深めながら、言葉と文体は、いかに密接な関係があるかを日々感じています。

堀　正広（教授 / 英語学・文体論・コーパス言語学）



King's College London で開催された Digital Humanities（2010 Digital Humanities Conference, London）で「最優秀ポスターセッション賞」（The Best Poster Presentation Award）を受賞したポスター。

遠隔授業奮闘記②

矢冨　弘（講師／英語史・社会言語学）

大学では新学期を対面式授業で迎えることができたが、新型コロナウィルスの拡大により再び遠隔授業を中心とした形態に切り替えざるを得なくなった。私自身、今年度も引き続き、授業の充実と学生の満足度の向上に取り組んでいる。私の専門は英語の歴史を扱う「英語史」であるが、４年間のイギリス留学の経験もあることから、イギリスに関連する講義も担当している。英米学科での学びは英語の運用能力だけではなく、英語という言語を取り巻く文化的背景への理解も重要である。本稿では私の授業における試みを綴ってみたい。

「イギリス研究入門」は１年生の必修科目で、英米学科での４年間の学びの基礎となる。英語という言語が育まれた主たる土壌はイギリスであるが、なかには「英語＝アメリカ」のイメージを持っている学生も多い。添付の写真はスコットランドのハイランド地方のものであるが、一口にイギリスと言ってもその文化や言語に至るまで実に豊かな多様性を内包している。この授業では主に英語の映像を視聴しつつ、英語を使って知識を深めることを目標にしている。イギリスに対して漠然としたイメージしか持ち合わせていなかった学生も、授業を重ねるごとにイギリスの輪郭を把握し、理解を深めていってくれているようである。さらに発展的な授業である「英米文学講読Ⅲ」ではハリーポッターを講読している。文学作品を読み解く際には、英文の構造や単語の意味がわかっても、実際にどういうことを意図しているのかピンとこないことがある。ここでも社会、文化、歴史などの背景知識が必要になってくる。その部分を解き明かしていくことも、文学鑑賞や学問の楽しみの一つである。

書籍紹介

今井むつみ著『英語独習法』(2020)

神本　忠光（教授 / 応用言語学・英語教育学）

「こんどいっしょにホテルにいきませんか」とインド人日本語学習者が教室で発言する場面が、ある芥川受賞作品の中に出てくる。これを一般の日本人女性を相手に言ったら誤解を招きかねない。インドでは「食事にいく」の意味で使うらしい。紹介する本の著者今井氏によれば、これはスキーマの違いが原因ということになる。同じような発話を日本人英語学習者もたくさんしているに違いない。

この本の特徴は、学習法の提案だけではなく、その理由としくみを認知科学の観点から解説している点である。学習法の１例として、好きな映画DVDの「熟見」を挙げる。日本語字幕付きで何回も繰り返して観る。その後、聞き取れない英語を推測し、英語字幕で確認する。映画は複数の感覚に働きかけるので深く記憶でき、この映画のせりふが全部「自然に（頭に）入った」と述べている。さらに国家レベルでの成功例として、フィンランドの英語教育を挙げている。「勉強するための科目」ではなく「使うための科目」にすることが成功の鍵と要約している。中学校でも「授業を英語で行うことを基本とする」と学習指導要領に明記されたが、教師が英語の使い手のモデルとなることの意義深さを示唆している。

言語が異なる人々との理解を深める意図で、外国語は使う。冒頭のインド人の発言に類する場面に出会ったら、「えっ、どういう意味ですか」と聞き返せる異文化コミュニケーション適応力も身につけさせたいものである。（岩波新書 1860）岩波書店、880 円 ＋ 税。

きみと未来をつなげる
クマガク
編集人　塩入　すみ（英米学科長）
〒862-8680　熊本市中央区大江 2-5-1
TEL: 096-364-5161（代表）　Mail: shioiri@kumagaku.ac.jp